

報道関係者 各位

2022年5月11日  
公益財団法人日本デザイン振興会

## 「グッドデザイン・ニューホープ賞」を新設 学生・若手のデザイン活動を支援、5月11日から応募を受け付け

公益財団法人日本デザイン振興会（東京都港区、会長：内藤廣）は、このほど学生などを対象とする新しいデザイン賞である「グッドデザイン・ニューホープ賞」を新設し、5月11日（水）から第1回の募集受け付けを開始します。



## GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD

ロゴマークデザイン：  
（株）電通 / （株）たき工房

「グッドデザイン・ニューホープ賞」は、将来のデザイン分野を担う世代の活動を支援することを目的としたまったく新しい賞です。当会ではこれまでグッドデザイン賞（Gマーク）を主催しており、毎年多くの優れたデザインが受賞しています。それらが企業やプロのデザイナーなどが手がけた商品やサービスなどが主な対象であるのに対して、「グッドデザイン・ニューホープ賞」は、現在在学中の学生や修了直後の方によるデザインを対象に実施されます。そのため商品化や実現化がされていない、大学や専門学校などのゼミの課題制作や卒業制作、自主研究などのデザインで応募できることが特徴です。

募集期間：

2022年5月11日（水）～7月15日（金）

応募資格：

応募者は、個人またはグループとし、2022年4月1日現在で個人またはグループの全員が日本国内の各種専修専門学校・大学・大学院に在籍しているか、2021年6月以降に卒業・修了した方。いずれかに該当すれば年齢の制限はなし。

なお複数人により共同で創作等を行ったグループによる作品等を応募する場合は、グループを構成する全員の同意が必要。

---

本件への一般からのお問い合わせ：

公益財団法人日本デザイン振興会 グッドデザイン・ニューホープ賞運営事務局

Tel：03-6743-3777 E-mail：newhope\_award@g-mark.org

---

#### 応募対象：

応募者が独自に創作した、2017年4月以降に制作された作品で、2022年12月3日の受賞発表日に公表できるもの。

各種権利の侵害がなく、関係教育機関や企業などとの間で応募に関して支障がないことを確認できたもの。

※同一年度に同一の応募者が応募できる点数は1点まで。

#### 応募カテゴリー：

1. 物のデザイン（製品など）
2. 場のデザイン（建築、施設、環境など）
3. 情報のデザイン（コンテンツ、プログラム、メディアなど）
4. 仕組みのデザイン（サービス、システム、取り組みなど）

#### 応募方法：

公式ウェブサイトより登録

<https://newhope.g-mark.org/award/>

#### 出品料：

無料（2022年度実施分に限る）

#### 審査委員：

審査委員長：安次富隆（プロダクトデザイナー／ザートデザイン 取締役社長・多摩美術大学教授）

審査副委員長：齋藤精一（クリエイティブディレクター／パノラマティクス 主宰）

1. 物のデザイン：安西葉子（デザイナー／ドリルデザイン）、小倉良介（プロダクトデザイナー／富士フィルム）
2. 場のデザイン：山出淳也（アーティスト／Yamaide Art Office 代表）、工藤桃子（建築家／MMA Inc.）
3. 情報のデザイン：佐々木康晴（クリエイティブディレクター／電通）、河原香奈子（デジタルプロダクトデザイナー・ディレクター／Takram）
4. 仕組みのデザイン：林千晶（プロジェクト・マネジャー／ロフトワーク 代表）、秋吉浩気（建築家・メタアーキテクト／VUILD Inc.）

#### 賞と賞金：

最優秀賞（1点）／賞金30万円

優秀賞（7点）／賞金5万円

入選（点数制限なし）

※最優秀賞・優秀賞には副賞として、1受賞作品につき記念品と表彰状を贈呈。

※各賞については「該当なし」となる場合があります。

※受賞発表後に受賞者が参加できる活動支援プログラムを実施する予定です。

#### スケジュール：

一次審査会 2022年8月

最終審査会・受賞発表 2022年12月3日（公開形式で開催予定）

## グッドデザイン・ニューホープ賞の特徴

### 提案や研究での応募が可能

大学（大学院）・専修専門学校の在學生やそれらを修了直後の方が対象となるため、応募に際しては商品化や実現化を条件とせず、提案や構想や研究として制作されたデザインで応募ができます。

### 幅広い領域のデザインが応募対象

形を持ったもののデザインから、特定の形を伴わない活動や取り組みのデザインまで、社会を構成する「ものごと」全般のデザインをカバーする四つの領域を設定して応募を受け付けます。それぞれの領域の審査は実業の一線で活躍するクリエイターが担当します。

「物のデザイン」：製品など

「場のデザイン」：建築、施設、環境など

「情報のデザイン」：コンテンツ、プログラム、メディアなど

「仕組みのデザイン」：サービス、システム、取り組みなど

### 応募テーマを指定しない

学生や若年層を対象とする賞やコンペでは、特定のテーマを定めてそれに対する提案を募る形式が一般的です。「グッドデザイン・ニューホープ賞」はそのような形式を取らず、応募者が自らテーマを考えて取り組んだデザインを応募できるほか、卒業制作やゼミ課題などで過去に制作されたデザインを応募することができます。

### 受賞後の活動支援プログラムの提供

受賞者のデザイン活動を支援していくために、企業でのインターンシップやデザイナーによるワークショップへの参加などの独自のプログラムを展開する予定です。

## グッドデザイン・ニューホープ賞創設の目的と背景

いまデザインは、さまざまな面で大きく変化し複雑さを増す社会において、社会課題の解決手法として活用されたり、物事を可視化する力や人を軸に物事を組み立てるヒューマン・センタードのプロセスが、特にビジネスの領域で注目されるようになってきました。そのため、従来は「造形」や「美術」として捉えられることが一般的であったデザインを、より総合的な見地から理解するとともに、社会の幅広い領域でデザインを実践する動きも顕著になっています。

このようにデザインのあり方が変動している状況下で、デザインを学び将来のデザインを担う立場にある世代を支援していくことの必要性が、近年になって各方面から唱えられるようになりました。当会では長年にわたってグッドデザイン賞を開催してデザインの社会への浸透と啓発を担ってきた経験を踏まえ、将来世代に特化したデザインの評価と振興のためのプログラムを設けることが、デザインの可能性をさらに広げるとともに、社会をよりよくしていく新たな力を生み出すことにつながると考え、グッドデザイン・ニューホープ賞を創設することになりました。

## 2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞 審査委員長 安次富 隆メッセージ



安次富 隆

プロダクトデザイナー  
有限会社ザートデザイン 取締役社長

ソニー株式会社デザインセンターを経て、1991年に有限会社ザートデザインを設立。2008年より多摩美術大学生産デザイン学科教授。情報機器や家電製品などのエレクトロニクス商品のデザイン開発、地場産業開発、デザイン教育などの総合的なデザインアプローチを行っている。

先を観る目、今に縛られない理想と勢いが、みなさんの力です。この先見性と意力が一体となったデザインが、次の時代の希望となるでしょう。新たな視点と挑戦に出会えることを楽しみにしています。



### 参考：グッドデザイン賞について

公益財団法人日本デザイン振興会が主催するデザインの評価とプロモーションのための事業です。製品、建築、ソフトウェア、システム、サービスなど、私たちを取りまくさまざまなものごとに贈られます。かたちのある無しにかかわらず、人が何らかの理想や目的を果たすために築いたものごとをデザインにとらえ、その質を評価・顕彰しています。毎年開催され、これまでに約50,000件以上のグッドデザインが選ばれています。

\*本リリースに記載のスケジュール、名称などは今後変更される場合があります。